

育友会定期総会

24年度事業計画を承認



今年度の新役員を紹介

2024年度育友会定期総会が6月1日、生田キャンパスで開かれた。育友会会長・専修大学役員・教職員ら114人が出席した。

小海祐資会長が議長を務め、議案を審議。23年度事業報告・収支決算報告、24年度事業計画・収支予算、新役員人事が承認され、新会長に溝田勝彦さんを選出した。

事業報告では、「支部懇談会」を4年ぶりに全国67支部62会場で開催したこと、学生に対する支援で、食料支援プロジェクトや応援ランチへ資金援助したことが報告された。本年度は引き続き家庭と大学の連絡強化を図るため、さまざまな活動を行う。

今年度の育友会主催行事、会員や学生に対する支援の取り組みの詳細は会報『育友』178（夏）号に掲載する。

大学院文学研究科

ジャーナリズム学専攻

25年4月設置予定

大学院文学研究科に、研究能力を有して、幅広い視野で社会の課題を自ら攻め設置する。4月25日より見だし解決できる人日、文部科学省に設置を届け出た。

具体的にはジャーナリズム研究、アーカイブ研究、スポーツインテリジェンス研究の三つを柱とし、文学部ジャーナリズム学科の教員14人が中心となって、多彩な講義・演習科目を展開する。

7月に学内選考、10月と来年2月に一般入試を予定している。

「ジャーナリズム学の専門性の一層の向上を図るための深い知的学識と幅広い視野並びに新たな知を創造するための能力を習得させる」ため、「ジャーナリズム学に関する高度な専門的知識と

裁判員制度開始から15年
成果と課題を議論



裁判員制度15年について幅広く意見を交わしたシンポジウム

法学研究所は5月11日、神田キャンパスでシンポジウム「裁判員制度15年の成果と課題」を開催した。元裁判官や弁護士、ジャーナリスト、裁判員経験者など10人が登壇し、制度の成り立ちとこれまでの経過、今後の課題について活発な議論を交わした。法学研究所、裁判員ラウンジなど主催、日本弁護士連合会の共催。約50人が来場したほか、約150人がオンラインで視聴した。

第1部は「裁判員制度の15年を振り返る」として5人が講演した。元裁判官の村山浩昭氏は、裁

判員制度スタート時の状況について「手探り状態だった。法廷で見て、聞いて分かる裁判にしよう」とわくわくした」と振り返った。講演を受け、飯考行法学部教授をコーディネーターに、パネルディスカッションが行われ、制度導入後の変化などを話し合った。

第2部ではこの15年で見えてきた課題と今後の展望について意見を交わした。裁判員ネット代表で弁護士の大城聡氏は、2023年から対象年齢が18歳以上に変更された点に言及し、制度開始以来もっとも重要な変更にもかかわらず、議論がさ

◆ 学部 ◆

学部	学科	合計
経済学	経済学	22
	現代経済学	1,167
	生活環境経済学	1,169
	国際経済学	1,026
	小計	3,384
法学	法学	2,310
	政治学	713
	小計	3,023
経営学	経営学	1,638
	ビジネスデザイン	833
	小計	2,471
商学	マーケティング	1,935
	会計学	928
	小計	2,863
文学部	日本語	4
	日本文学文化	524
	英語英米文学	659
	哲学	329
	歴史学	637
	地理学	240
	人文・ジャーナリズム	1
	ジャーナリズム	561
	小計	2,955
	合計	17,719

2024年度学生数

※5月1日現在

学部	学科	合計
経済学	ネットワーク情報	1,023
	心理学	354
	社会学	656
	小計	1,010
	日本語	319
国際コミュニケーション	文化コミュニケーション	671
	小計	990
	合計	17,719

学部	学科	合計
経済学	経済学	4
	法学	8
	商学	8
文学部	マーケティング	8
	小計	20
	合計	20

学部総計	17,739
------	--------

校友会情報

24年度春の叙勲・褒章

◇瑞宝小綬章
新保利幸氏（昭52文・東京都）教育功労

◇瑞宝双光章
平岡孝一郎氏（昭52経営・福島県）消防功労

◇ホテル専修会総会
▽7月1日（月）19時
分▽神田キャンパス「相馬永胤記念ホール」

◇熊本市支部総会
▽7月20日（土）18時
分▽鶴屋百貨店・カーネーションサロン（熊本市）

◇千葉県支部連合会総会
▽7月20日（土）10時30分
分▽神田キャンパス「黒門ホール」

※支部総会に関するお問い合わせは校友会事務局（03・3265・7579）

学生と大学をつなぐ懸け橋に



専大経営学部の出身で、自分の学生時代と比べて生田キャンパスはきれいになったが雰囲気は変わらない」と話す。

経営学部4年次の次男が入学すると同時に、育友会活動に参加。過去にPTA活動の経験はなく、「母校ということ

とで軽い気持ちで始めた」と振り返る。昨年度は育友会奨励賞の選考委員長を務め、学生の熱い思いが伝わった応募作品を読み込んだ。表彰式後に開かれた懇親会で受賞者と懇談した際、「芯を持って挑戦する姿、純粋でまっすぐな人柄に専大生らしさを感じた」と後輩たちの活躍と成長に目を細める。

今年度もさまざまなイベントを計画し、流が密で、大学の取り組みや学生の学修状況についてさまざまな情報を得られる点を挙げる。先輩会員から教わった就職支援に関する話は特に参考になった。共通の話題ができることで、子どもとの会話も増えた」と話す。

コロナ禍で制限されていた育友会活動の多くが昨年度から本格的に再開。今年度もさまざまなイベントを計画し、流が密で、大学の取り組みや学生の学修状況についてさまざまな情報を得られる点を挙げる。先輩会員から教わった就職支援に関する話は特に参考になった。共通の話題ができることで、子どもとの会話も増えた」と話す。

140年以上にわたり、社会で活躍する人材を輩出し続けてきた母校の歴史の重みを、卒業生の一人として強く感じている。仕事を通じて同窓のきずなを実感する機会も多いと話し、「そんな専大での4年間を有意義に過ごしてほしい」と在学生にエールを送る。

東京都立川市在住。

フィールドワークで出会った過去と現在



東南アジアをフィールドにしていると、日本と現地の過去の歴史に出会うことがあります。ラオスのある農村では、年老いた男性に「日本人か。昔日本の兵隊がここへ来たぞ」と言われました。「日本兵は小柄だが力持ちだった。重いドラム缶を一人で背負って歩いていた」「長い刀を持っていて、地面に突き刺すと刀から無線を取り出し話していたぞ」と言うのです。刀から無線機が出るとは何かの見間違いだと思いますが、とにかく私は日本兵がその村までやって来たことを詫言いました。

太平洋戦争中に日本軍の無謀な作戦が多々あったミャンマーでは、ある村に日本軍がやって来て村人たちに物資運搬人になることを求め、誰もが拒絶したところ、村人口の5分の4が殺され村は焼き払われたという話を聞きました。私は深くお詫言をしました。その一部始終はど

んなに謝っても謝り尽くせない残虐行為でした。

ミャンマーの他の村落には、かつて日本軍の物資運搬人を務めた男性がいました。一緒に過ごすうちに日本兵たちは本音を語り出し、「本当は兵士にはなりたくなかった。軍の上層部は酷い。でも逆らえない。日本には帰りたくない」と嘆いていたと言います。

人権概念はなく国家の暴走に従うしかなかった当時の日本兵の状況は、現在軍政下で人々を攻撃するミャンマー軍兵士の状況と同じです。私たちは言論の自由がある安全地帯にいますが、危険地帯にいて言論の自由がない人たちのために、「戦争反対」と声を上げ続ける責任があるように思います。

（学生部委員・飯沼健子）



緑地帯

◆ 大学院・専門職大学院 ◆

研究科	専攻	合計
経済学	経済学	21
	法学	29
文学部	日本語日本文学	21
	英語英米文学	6
	哲学	16
	歴史学	14
	地理学	3
	社会学	6
	心理学	22
	小計	88
	経営学	14
	商学	6
法学	会計学	35
	小計	41
	合計	193

課程	研究科	専攻	合計
専門職学位	法務	法務	37
	合計	合計	37